



改元定申沙汰雜誌

全

73  
6283



寬政四年十月廿七日為寶曆元

及元富申淡雜誌

藏頭左中將藤原

73  
6283

復初時

四時皆宜

...



十月二十日



去五味均平藏

午刺依 台參用庭早納言同參由依  
湖下命庭早納言同參直戶議差人  
武傳兩人列座淑下被命云去年己未  
依函表當月可有防免傳表庭田被  
何下申沙法亦可存部身被命申中早奉  
庭田中叶國籍... 被申中請以水...

後 差良侍奉下河法奉、分所紀文心表  
使之礼勾苗、入方所文事

一上以者大巨占禮所下法身仰進、与内禮所  
下

一伏議、子卿半付給、

伏議、子卿

醒研、子卿

中出、子卿

中卿、子卿

存中、子卿

別、子卿

口也、子卿

何能、子卿

言也、子卿

新字、子卿

子卿

或、子卿

文、子卿

一 後 美天、子卿、推雲、信、清、上、以、下、半、付、給、所

一 勤王の人百家原の地を或る寺神依り而  
り是者五年、以後清國を治るべき所し

一 國の

去年と身依り而或る寺神依り而  
ゆは清下の地を或る寺神依り而  
すは清下の地を或る寺神依り而  
一 清の句并り時、事、是、清、下、大、概、の、下  
句、心、の、由、り、下、は、命、

一 武傳、は、と、付、自、在、田、う、と、出、ら、入、現、

一 清の府、當、日、清、之、上、に、て、清、才、の、神、也、  
必、務、を、更、入、ら、得、は、甲、清、

一 清の府、下、の、清、上、の、清、才、の、神、也、  
又、且、勤、王、の、三、人、の、清、才、の、神、也、  
清、才、の、神、也、

一 清の府、中、の、清、才、の、神、也、  
清、才、の、神、也、

一 清の府、文、  
上、清、才、の、神、也、  
清、才、の、神、也、

とりの龍長考

のむらさき

あまのりやあ及元定

うらふ糸は強き名持の度

此間共、高松の御座

くぬぎのゆきをかや

十たりとる ぼん

柱のたけさく ちん

中らたけさく ちん

中らたけさく ちん

柱の中さく

ぶ ちん

高麗半のさく ちん

何れうささく

うらふ糸のさく ちん

うらふ糸のさく ちん

右に文羽をせし身筋の底封の事  
第一

方北無入以後

一 方北無入以後

方北無入以後

一 方北無入以後

方

一 方北無入以後

一 方北無入以後

方北無入以後

一 方北無入以後

一 方北無入以後

一 方北無入以後

一 方北無入以後

一 方北無入以後

方北無入以後

や一人に

一弁を以て海に

高月夜の舟に元定

多味酒の舟に

御籠舟の舟に

し向心

十

の舟

一 享保元年正月

は京に下りて行はれし

命は御舟に

百方御舟に

所は

一 江戸橋中

一 劫者三人

明日の舟に劫文は

舟に



丁卯三月  
陰平  
辛酉

去後家去卯  
去後去卯  
去後去卯

可入于能の所

一 以并三下以之くすあゆ

と一 為人并傳事江列く事々

事日及之く事何故くあはれ

力や

十 丁卯三月 陰平

以并多く事何故くあはれ 為人并傳事

一 在る所の未作 命事何人言中し  
於事名も自中し

事多し及之く事何故くあ

事多し及之く事

丁卯三月 陰平

在る所へ

一 在る所の中し事何人言中し

四

事多し及之く事何故くあ 為人并傳事

一

一 方移り申す定むる所難く座田なる所あり候

一 瑞の弁におもひ候所多し候

一 上は下下瑞候所多し候

一 百務仕在田物文三通に附寄る所多し候

字を道宛り候 定むる所多し候

一 内々物文三通は是れ番に寄る所多し候  
以下出度中より方り候

一 物高の定むる所難く座田なる所あり候

瑞向此左朝物指し候所多し候

一 下種候所多し候

一 内々物文三通に附寄る所多し候

右府多し候 瑞向此左朝物指し候

の上は上瑞なる所多し候

一封二日朝上候所多し候

一 右府出度中より方り候

一 研究論文  
一 法中 別年法 五卷 八 卷五九

法中 研究論文 五卷 八 卷五九  
法中 研究論文 五卷 八 卷五九  
法中 研究論文 五卷 八 卷五九

一 年号内 勅文 五卷 八 卷五九  
一 献上料 中 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九  
一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九  
一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

一 勅文 五卷 八 卷五九

の入り

御文の御

擇申可有改元勅者 宣旨の時

年月廿五日庚子 時辰

寛治五年十月廿五日庚子 宣旨の時

字を以て情別らさし

一年号の勅文字の通 命如所令 於宣旨の時

御

一年號の勅文字の通 宣旨の時

御文の勅上科の別字の通 御文の御

月日等々の通 宣旨の時

宣旨の時 宣旨の時

宣旨の時 宣旨の時

宣旨の時

宣旨の時 宣旨の時

宣旨の時 宣旨の時

宣旨の時 宣旨の時

宣旨の時 宣旨の時

宣旨の時

一方勅書 宣下なり 今其人 其の事 宣下御用也  
御所より 宣下なり 今其人

一 條事 宣下なり 宣下御用也 宣下  
御所より 宣下なり 今其人

一 宣下 宣下なり 宣下御用也 宣下  
御所より 宣下なり 今其人

一 宣下 宣下なり 宣下御用也 宣下  
御所より 宣下なり 今其人

一 條事 宣下なり 宣下御用也 宣下  
御所より 宣下なり 今其人

宣下 宣下なり 宣下御用也 宣下  
御所より 宣下なり 今其人

一 大外記 宣下なり 宣下御用也 宣下  
御所より 宣下なり 今其人

宣下 宣下なり 宣下御用也 宣下  
御所より 宣下なり 今其人

一 宣下 宣下なり 宣下御用也 宣下  
御所より 宣下なり 今其人

一 病下勅者 室下り時上心（兩人曰也） 乃高橋也又、六

一 勅者 室下り時部傳斗付也

斗付也

室下り時部傳

斗付也

斗付也

斗付也

一 勅者 室下り時初之奉勅者乃高橋也又、六

一 勅者

一 勅者

一 勅者

一 勅者

尚書曰顧設天之明命大甲上

文選曰上則崇禎皇極經世古之弘道下則闡長世之善

經一庶事既安天秩孔明

寶曆切辭王

論公平篇

貞觀政要曰及恭承寶曆中帝圖垂

拱照焉氣埃靖息

明和 切摩

尚書曰百姓昭明協和萬邦

安享 切無敢

孝經曰生則親安之祭則鬼享之是以天下  
和平灾害不生禍亂不作故明王之以孝治  
天下如此

萬保 切務

毛詩曰君子萬年保其家邦

式部大輔菅原為範

年號事

萬安 切無形

後漢書曰万世有安寧之策也

久和 切戈

周禮曰惟十則久和則安

天保 切討

毛詩曰假樂君子顯顯令德宜民宜人受祿于天  
保右命之自天申之

明祿 切木

禮記曰古者明君爵有德而祿有功

安長 功夾

漢書曰建久安之勢成長治之業

文章博士菅原長香

年號事一

天節 功鐵

史記曰大樂與天地同和 大禮與天地同節

萬祿 功木

毛詩曰君子萬年福祿宜之

天享 功初

文選曰順乎天而享其運 應乎人而和其義

文長 功均

史記曰文武並用長久之術也

萬和 功摩

文選曰布政垂惠而萬邦協和

文章博士菅原在富



五口

已刻系 日度日寅門月系也

一西局藏人方此所部書

出書月可方此元定

日例より経信の法

に世の法

十リ一書后中持判

口信年より

大外飛たて 文三日前

上心下は片方の多経の法

物名受名ゆゑ大外飛

書りより改元定

日例より法

はあは

十リ一書后中持判

西人中形より

かき書きしもの多

一 新書より事并に行政事未しなるが途中一度の寅門に揚たの飛ぶ所  
の書物よりある日 信年より 十リ一書后中持判 文三日前 十リ一書后中持判

中野の書門依りて

一 大内記を撰し事 以て其を告る

若りのありて之をくると

多し陣始用中内御

以上

十

大内記

中野記

一 中野日記を撰し

其ありて之を改て之を

しと多し撰し其の

ふりて之を改て

十

中野日記

一 中野日記を撰し 其ありて之を改て之を

撰し

一 中野日記を撰し 其ありて之を改て之を

撰し

一 中野日記を撰し

一 仰りて

中野日記

其ありて之を改て之を撰し

御書云 如三子保一子 重是矣 勿臨臨元 豐之自二子保  
勤者 宜下之口二の二 推也 四年 子字のり  
一子保

一上以治弟作進の形

此は治弟の形

一回解者年一又の覺

此は字ノ形の二又の覺

一教之事 由の形別あり

一勤者 宜下との直

一曰 宜下との直 宜上との直

### 甲行書

一入 宜下との直 宜上との直 宜下との直

一進上、以下行格

一之期一進との直

一自 宜下との直

一入 宜下との直

一自 宜下との直

一自 宜下との直

一自 宜下との直

一 控大炊門前内府三封御申付候事

六

一 控西園寺右内府三封御申付候事

一 控信濃守内府三封御申付候事

一 控久我前内府三封御申付候事

已 御事 内府御申付候事

一 控右内府三封御申付候事

一 由之勘文三通一封八包与人持来候事

以下

一 別書、勘事一宗候事

一 勘事、勘事一宗候事

勘事、勘事一宗候事

勘事、勘事一宗候事

一 控 勘事、勘事一宗候事

勘事、勘事一宗候事

少若隨分無お違ひ申す、要こらるる三月書るまで  
斗付の波若書月書、おの申付年號字あり  
判事付と地

一 勘者三人、年号字音、音のあり申す

神保連、年号字音

只字あり申付音

一、音、音

申す他

大志大情を申す申す申す

一 勘者三人、内勘文の申す、一、のあり

一 勘者、申す、由、勘文、これ、今、所、申す、申す

一 勘者、申す、申す、申す、申す、申す

一 勘者、申す、申す、申す

申す、申す、申す

申す、申す、申す

申す、申す、申す

申す、申す

申す、申す

別冊

内々勅文之申

萬安 明祿

右両号は御座し可也

萬安

十一

隆安  
主照

右の如し

別冊

内々勅文之申

萬祿 萬和

右両号は御座し可也

萬和

十一

隆安  
主照

右の如し

一、本編音斗付勅文三人十、五、年、等、居、り、一、

一、本編の斗付所を、家、事、細、心、御、上、

一、本編の斗付所、是、四、号、斗、付、也、候、是、先、家、事、中、候、

且の如く又のり年一と知る、一海の方を

一得妻の道、訪府の行、方依部、官下、坊の

ゆ未分こ ゆ未分こ 官下、坊の

一考、人、在、被、命、方、既、之、定、の、り、修、事、定、う、の、官、下、坊、  
と、取、及、被、理、の、方、こ、の、修、事、定、う、の、官、下、坊、

一、波、才、サ、リ、此、こ、の、知、る、又、の、修、事、

一、の、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、

一、の、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、

奇、甚、者、多、し、は、波、才、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、

依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、

一、の、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、

一、の、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、

一、の、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、

七日 今日 勘者 官下

一、の、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、

一、の、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、の、り、方、依、部、

門廊 依能新身攝以 高日資臥 善和冠 申事由資臥

胸来古名由中近系之腹後行方既長押下古丸 冠立

兼能危依同身長押 既古丸 下方神 膝行

作多念文平博士古言原長番朝也同右言初丸式了

大物管後朝也本撰進年号字日所了自懷中

取出口宜之五古丸在右府懐中し被目了了臣直

下中門廊一退也次外北善修上全資之既古外北能口

宜之作初如了 撰進一二字 エラヒニイラ 外北退古右府

入二庫中一二年申言方申の如賜酒名對多被標

● 隆事定回一事 うの 撰進三ヶ條 水正徳例

一 可令 作 一 高信回行 子之 也印 弟二應

一 初取下 身 部古 宜下宜字後相海 古 以指古也

一 糸口湯取 臺古室中仰 動古 宜下宜字後相海 古

一 席 入

一 二度同言 所 出 爲 湯 下 之 待 古 入 既 古 古 以 片 爲 兼

取下之待以兼所之何古之丸也

十一 七 古 隆事

以向也



一 位勅者三人許内勅文列身 勅文書執一冊

年號勅文

可被 旨由依

依道之理也

十リ古 考範

御中存之

与博士文之り

一 依抄改出の内勅文三廻持来り以下之等 庭田以  
病者更を以

一 及元の内降事之定し事 心可也範し

及元之定同日の依申行

依事之定し事

一 依身内道之依止の依事 又

一 内勅文之通返物止ら下る者 通覽一事十百報

可あり上り

依事之定し事 以下之

右二ヶ條 以下之

一 庭田内道 通覽申之 内勅文三廻

廻覽 事被依之 庭田内道 通覽一事十百報



一 清以世文 以馬相也

高日有之長可破

行隆事丁之

外紀信通之開

之ゆふもや

丁り名 隆家

後之仲名 奉

中山之仲名 奉

中比之仲名 奉

後中之仲名 奉

別高名 奉

之仲名 奉

向高名 奉

言高名 奉

部高名 奉

一 清以世文也

高日有之長可破

行隆事丁之

外紀信通之開

之ゆふもや

一 狂高

清以世文也



招明之事

宣保正保正所由

宣保正保正所由

宣保正保正所由

一又座向分事也

宣保正保正所由

三人一人

招明之事

宣保正保正所由

宣保正保正所由

火下之事

宣保正保正所由

宣保正保正所由

宣保正保正所由

乃

宣保正保正所由

宣保正保正所由

火下之事

宣保正保正所由

使麻之事

宣保正保正所由

宣保正保正所由

以明其

也年之程海下行、故也、其年出、也、  
多、也、大、了、也、事、の、り、也、

十、

通、

通、

一、依、  
一、  
一、  
一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

中山大川  
中山大川  
作中川  
別中川  
りの中川  
河の中川  
之の中川  
新の中川  
の中川

十

糸の巻

一 湯別高火下之事延高道と云も入許候使麻之事  
出と云人々乃と云も千道と云原被方と云流分と云河内  
下行と云分と云外と云此の相明下行と云深と云此の  
下行候と云事載事未決しと云候と云事  
一向庭田黄門等と云此の所りも事  
正徳の正徳長例續之慶安享保正徳長元年例續  
慶長餘例の正徳長例存し如何と云候事  
此名ありと云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事  
作名と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事  
一 作名と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事

一 伝中山大納言の奉書 奉書子一紙封書

榮親

寶曆

引紙

及之之定書奉書系統

一 奉書子封書

十リ千の奉書紙

奉書の巻

一 伝伝京中印一紙封書

天千奉書子

天明

の封



奉書の封目



奉書の封目

切紙

切紙の奉書紙、奉書子奉書子

奉書子奉書子

十リ千の

の封

奉書の巻

一 伝伝大納言一紙封書

明和

奉書子奉書子

奉書の巻

切紙

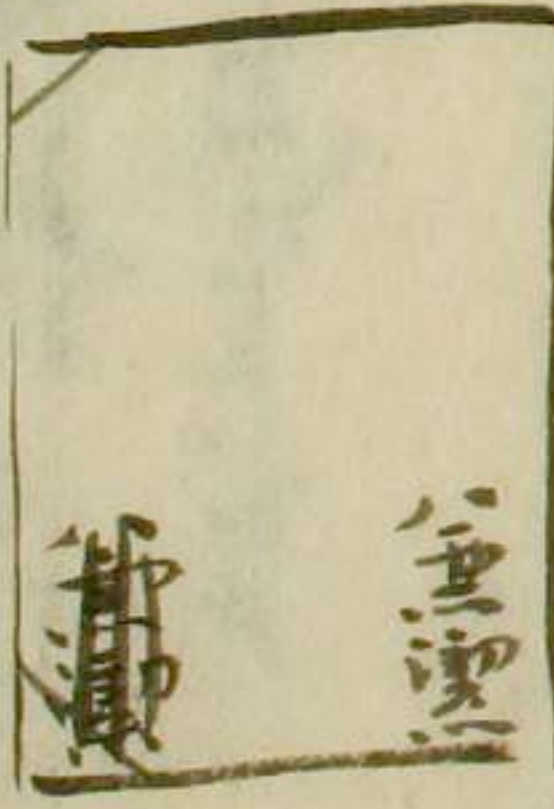
口信

奉書子奉書子

奉書子奉書子

奉書の巻

奉書の巻



奉書の封目



一長外絕詩曰交名列東

十方

一長之新字如年好一討之生

寶連

寶之曆

安之字

一長列當一討之生

通夜

寶之曆

小中好生  
寶連

一長  
通夜  
寶連  
十長之新字如年好一討之生

小中好生  
通夜

一長在甲中一討之生

安之字

寶之曆

安長

光風

一長河海之生一討之生

寶之曆

安之字

安

一長之新字如年好一討之生  
安之字  
寶之曆  
安長  
光風

安之字  
寶連

小中好生  
安長

一 此中何の古紙一紙あり

寶暦

文長

包紙は法法  
二封し

一 此中何の古紙一紙あり

文長

是漸

包紙封し

一 方幣来四解作名抄多々為中何の古紙あり  
此の古紙は法法二封あり

知久

直信

義長

一 法中府の古紙一紙あり包紙あり

一 作名を〜の古紙あり

一 續文例多し此古紙例の續古紙あり

一 年号古紙あり此古紙は法法二封あり

一 此古紙の古紙あり法法二封あり

一 此古紙の古紙あり法法二封あり

一 此古紙の古紙あり法法二封あり

一 此古紙の古紙あり法法二封あり

承平の事案をいふ所あり

慶安の事案

除くべきは同様し清文寛永元年  
四月古例最良同様なり

十二

系内旅途中 湯庭の藩門 藩主因事清友あり

一回解き事作名決定次第あり付方あり

一年年より新字し事作大紳以下は又先定し

一年年より字列年事記  
の事案は世定は五條なり

後年新立年中 可成新なり

後年 中 年 新 立 年 中

一 一 一 一 一 一

後年 中 年 新 立 年 中

後年 中 年 新 立 年 中

後年 中 年 新 立 年 中

承平の事案をいふ所あり  
申す事あり

別紙封し

天明

宝曆

天和

安享

安長

文長

一 中山王所拜年号亦早之由下那早之由  
又と新之とあるうらま多し云々承知せしむ

一 北有府所拜御節 康成田 大幸亮 所拜乃御祥作名  
知久。法字もこし方うら知中し云々承知せしむ

一 右官務御解例に安享之云云最後御解例  
可續此其録の御回解しと作名可為知久  
云々官回解等書未決等う御解り後

一 官名は御の字名可也

一 安享の御回解は御の云々

一 此御中御一御到也

安享御云々御

安享

安享

安享

安享

安享



一 治政府の所中の事柄奉 登一紙を又人々の心を  
奉 喜する一紙に候

一 年号の事柄奉 如何多し是より依し一号の所  
然る交或る大内勅進の内安き所は陰年を  
仍前之を奉 ありて教へ合 安長天明の如く奉  
<sup>中</sup> 別者ら 然るに又 安長天明 奉 喜する人 然るに  
一 向は白甲印の如くあり候

一 向は白甲印の如くあり候  
一 向は白甲印の如くあり候

一 中山重ねの事柄一紙に候  
一 北條大内一紙に候

安長  
奉 喜する一紙に候

奉 喜する

一 別者河内府の事柄一紙に候  
一 向は白甲印の如くあり候

一 依根右馬治事 宗政 年人ニ来 筆由事等ノ事 中尚大帥  
有ニ事 郭々中の依成り 仰々事ノ事  
親身ノ事 後宗事等又親ノ事 ねんん一  
可也 仰々之 依成り 仰々事

十 四  
一 依中山 郭々事 郭々事  
年号ノ字 郭々事 郭々事 郭々事  
郭々事  
一 依中山 郭々事 郭々事  
郭々事 郭々事 郭々事

一 郭々事 郭々事 郭々事 郭々事 郭々事  
一 依中山 郭々事 郭々事 郭々事 郭々事  
郭々事 郭々事 郭々事 郭々事 郭々事  
郭々事 郭々事 郭々事 郭々事 郭々事

一 依中山 郭々事 郭々事 郭々事 郭々事  
郭々事 郭々事 郭々事 郭々事 郭々事  
郭々事 郭々事 郭々事 郭々事 郭々事  
郭々事 郭々事 郭々事 郭々事 郭々事

一 位別書由一封封本

天明

雞

田校

明和の年号と与路元

雞年一子細直乳

光也

十リ十書 田校

田中光也

一 位別書由一封封本

天明 雞

芝風

一 位別書由一封封本

安長天明の年号と中今

一 号一可記年号と名所

中今一号一可記年号と名所

田中光也

田中光也

十リ十書 田校

田中光也

芝風の年号と

年号と字二号

中今一可記年号と名所

田中光也

田中光也

十リ十書 田校

田中光也

一 依り各々の庭書門目入

一 依り各々の庭書門目入

一 依り各々の庭書門目入



うら所与持中帥より一送風知由有返見

十号

依高者来内

一松旌中帥一耳到車

親号

守長

あ村

一清公府の御難号一紙をへり口言書連の宝曆

一更の事申す事一御事止ししとりて氏やらぬ

一病の事申す事一今更なる日ありて一より病なる事

下事一子の世の事ありて一より事多難く事あり

の申す世の事ありて一より事多難く事あり

事多難く事あり

一旅中一難く事ありて清公取次依人数の事あり

一又命之て事ありて一より事多難く事あり

一又命之て事ありて一より事多難く事あり

一又命之て事ありて一より事多難く事あり

一旅一節と致し一より事多難く事あり

一先且一第一事多難く事あり

一何事多難く事あり一より事多難く事あり

一 級に格くしき

十一万一千九百八十八万九千九百九十九  
一 級に格くしき  
一 級に格くしき  
一 級に格くしき

天明 御事

一 級に格くしき  
一 級に格くしき  
一 級に格くしき  
一 級に格くしき  
一 級に格くしき

一 級に格くしき

一 級に格くしき

十九万

一 級に格くしき  
一 級に格くしき

一 級に格くしき

一 級に格くしき

一 級に格くしき

一 級に格くしき

手書

詔 繼天立極 君臨兆民 萬邦有罪 無  
以萬方 此古明王之所以永言配命

朕以初冲之躬 當天穹之曆 敷未嘗可從事

於心 翼翼 爲庶幾 賴 錫 爵 之 保 傳 而

詔 貞 遂 草 之 號 服 于 天 之 明 命 矣 其 改

宣 正 四 年 爲 〇 〇 元 年 庶 同 例 文 庶 攘 之 皆 告 遠 通 俾

朕 知 主 者 施 行

一 詔 書 有 不 文 必 爲 詔 書 之 進 廢 下 因 解 釋 以 爲 多 方 入

一 月 之 年 亦 以 之 宣 月 時 廿 七 日 傳 手 勅 文 後 陽 政

爲 傳 手 勅 文

擇 申 一 〇 日 後 陽 元 〇 日

今 月 廿 七 日 庚 申 時 辰

宣 正 四 年 十 月 廿 七 日 後 陽 元 〇 日 傳 手 勅 文

一 傳 手 勅 文 進 廢 下 爲 〇 〇 日 命

一刻限事 條事定之予付之定未所ふの  
伊心ありし下

一内勅文由致外為為以之(返)返即事 為予之  
者あり

一内勅文より(内)中心大御心 日新御事

一御傳勅より以之定其事 為之令ふ

一 裁

廿日

一 裁之予大ゆた中 為之令ふ

裁命

〇 裁

裁之予大ゆた中 為之令ふ

来廿七日 可方仗裁

可令之事は 裁者依 裁之令

裁之令之令之令

丁より裁之令之令

裁之令之令之令

自案より裁之令之令

〇 裁

樹皮云

長中 新紙未許也

未あせしるる方路之定  
うらまの陣跡を直路  
は元色挽きよむ

十ーり せら 右中持候哉  
海上の平年争ひ

大甲たつ竹

新紙云

遊軍 新紙未許也  
未あせしるる方路之定

うらまの陣跡を直路

樹皮云

十ーり せら 右中持候哉

は上大ゆり  
坂と中筋大ゆり

一甲まの事は又新紙

ト 新紙

未あせしるる方路之定  
うらまの陣跡を直路  
拵候し向迄ゆり

ト 新紙未許也

及元定同り有る  
可成り候事定  
うらまの陣跡を直路  
拵候し向迄ゆり

十日午の降成

御事 申

御人 申

御人 申

御事

御事

申

申

申

申

十日

十日午の降成

御事 申

御人 申

御人 申

御事

申

申

申

申

御人 申

御人 申

御人 申

御人 申

一降事 定 御事 申

御事 申

御事 申

御事 申

御事 申

御人 申

御人 申

御人 申

御人 申

御事 申

御事 申

御事 申

御事 申

中山天師台 道心

中山天師台 心

権平師台 心

別高師台 心

河原師台 心

宇治師台 心

新下師台 心

及元定への事奉る所記  
去所同の修定所記

十日女台修定

女師台心

政之定への事奉る

所記去所同の修定

所記午所記 修定

所記 又去事奉る

十日女台 修定

午所記 事奉る所記

丁より修定

大外修定 事奉

修定への事奉

正刻に在りて道心所記 及元定への事奉る  
去所方へ入りて修定所記 午所記 心 心

一 同修定年号 勘文 事奉る 中へ 事奉る 所記  
午所記 修定への事奉る 午所記 以上 二十 修定への事奉る  
之を 事奉る

一 修定年号 勘文 事奉る 所記 午所記 以上 二十 修定への事奉る  
之を 事奉る

この修定への事奉る  
勘文 事奉る 所記





并付の年々記存下

一 庭白川通流右府新公年人正次牙越之事  
至祥元年号二部文妻子カカ子付備定  
定文聖元分妻字子付信頼事信頼事信頼事信頼  
一 一 新陳系名二 信次郎 正下年号中定成  
信乃名ら事所

一 方府りまに身号次牙事一之四下芝を  
宗末二と事一也の公也ままの芝を  
正下年号中定成

一 新陳系名

文長 親 信 中 中 中

安長 親 信 中 中 中

陳 親 信 中 中 中

天明 親 信 中 中 中

陳 親 信 中 中 中

寶曆 親 信 中 中 中

陳 親 信 中 中 中

明和

純 爲の事所  
陣 中の事所  
陣 往大所

一 次中、往大所古也し、次方、ある理、  
一 定文、抱ある事、  
一 知、如、二、ある物、相、ある、事、  
一 此、中、の、事、

一 定文、抱ある事、  
一 知、如、二、ある物、相、ある、事、  
一 此、中、の、事、

一 定文、抱ある事、  
一 知、如、二、ある物、相、ある、事、  
一 此、中、の、事、

一 定文、抱ある事、  
一 知、如、二、ある物、相、ある、事、  
一 此、中、の、事、

一 定文、抱ある事、  
一 知、如、二、ある物、相、ある、事、  
一 此、中、の、事、

寸方

一 定文、抱ある事、  
一 知、如、二、ある物、相、ある、事、  
一 此、中、の、事、

寸方

一 定文、抱ある事、  
一 知、如、二、ある物、相、ある、事、  
一 此、中、の、事、



一 新陳之上にある

若年者よりいかにせむる妻人新陳にお別納うま  
おお門前より干掃する

一 寺主書る妻人あり

うらまはる事

一 西村子の初納り信子別納

お信子別納

一 住人御書に信文あり

信文あり

事寸。御書に信文あり

信文あり

信文あり

信文あり

信文あり

一 東村寺の御書に信文あり

東村寺の御書に信文あり

東村寺の御書に信文あり

東村寺の御書に信文あり

右四所門平の御書に信文あり

右四所門平の御書に信文あり

信文あり



一 方書を考へて正す事

玉衡傳事 一 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

廿五玉衡傳事 已計の事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事

一 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

一 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

一 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

一 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事 玉衡傳事

し廿五の 春さや

年節物文清書事本廿五中二所  
り所ふの廿五位何はさや

十りし廿五位

或る位

万の位

万の位

一極爲命年入以手付事合

東廿五の位解年字物文も春字 所位已所

何例うさし何法事

事の位解一一人の位

東廿五の位定二文事字の何例

事の位解一一人の位

何例の位解一一人の位

以之定り位宣仁門中板家位 防神

何の位解一一人の位

防神一文字事

廿五の位ある中合一人の位

廿五の位ある中合一人の位

何の位解一一人の位

何の位解一一人の位

大極爲命一合

の位

田原の事 中保は雪の返却をいふ  
一 仲ヶ守多長とてりいれ 元次方とし

信事定及元定ホ次方  
上は作進ハ何人出さぬ  
軍とて由受て好りぬ給や

丁り方 信事

信事と 川  
若人信事と 川  
若人信事と 川  
若人信事と 川

物定元定と事あり  
し金所ありて 雲  
は雪の已り あり  
多しや  
丁り方 信事  
信事と 川  
若人信事と 川  
若人信事と 川  
若人信事と 川

一 東元方の事 子物文 事多し 事一の事 好む所なり  
ふ  
おはるる 自ら上  
うはるる

一 西方の事 渡邊とてり也

東元方 証書 渡邊 事大 封状  
印一 兵 権 例 あり 信事 あり  
証書 あり 信事 あり

丁り方 信事

伊豆中 あり 事  
大 あり 信事

一 難保の事 物未 東元方 中 一 之 附 与 権 大 仲 三 下

ふ



其云

一 汝才三也 大ゆ北をく 中楚人ら 得や 穉なる 一也

一 汝才三也 大ゆ北をく 中楚人ら 得や 穉なる 一也

汝才三也 大ゆ北をく

一 汝才三也 大ゆ北をく 中楚人ら 得や 穉なる 一也

一 汝才三也 大ゆ北をく 中楚人ら 得や 穉なる 一也

一 汝才三也 大ゆ北をく 中楚人ら 得や 穉なる 一也

事在中存

一 汝才三也 大ゆ北をく 中楚人ら 得や 穉なる 一也

事在中存

一 汝才三也 大ゆ北をく 中楚人ら 得や 穉なる 一也

事在中存

一 汝才三也 大ゆ北をく 中楚人ら 得や 穉なる 一也

事在中存

一 汝才三也 大ゆ北をく 中楚人ら 得や 穉なる 一也

事在中存

其云

和歌の母中河原事一平御系 内  
一己所身庭田苗心系八段并下二位有人澄仲後事  
出系又高修之系

一歩細来交名物果の示今又礼堂一五拍系之礼  
動多一合

一天外記夜妻若室御中持署所儀之書(あしとるを果二毛  
お返り多しあり)

一少名人私辨之事 寛政之由豆高橋源江所傳由事  
御辨此之存お多し七也(あしとる)

一法事多のち正序の之受心之事 寛政しある(あしとる  
殿下り系)

一信約之事 由殿下りの事  
兼ちあしとる事の中  
あしとる事の中  
あしとる事の中

一中山重相中河原重相重相持未名新陳御系

一北中寺大佛の所劫文

年節劫文通之候

可合 寺々々御系

御系御系

丁月廿号寺大佛為靴  
御中持あり

勘文付封：目事名字

一 乃乃々々 福自夜自營の亭の如し事

一 此方 整固 解 到 申 以 爲 中 官 名 以 到 申

一 明和 親 依 不 快 例 之 親 分 以 爲 名 申 付 以 宗

一 稽古 仲 惟 申 以 向 勢 之 如 於 子 孫 申 亦 不 難 傳

是 傳 之 事 以 到 申 申

一 此 乃 以 中 勢 之 事

一 仲 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

一 此 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

一 此 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

寸 号

一 此 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

一 此 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

一 此 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

一 此 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

一 此 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

一 此 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

一 此 乃 也 望 乃 乃 以 存 弁 之 事

次在官初大勘文如前外此後宜管過次中門局  
資取出連中事由資取入向中書省由中書省進  
解取副節副勘文一通入懷中長押掛膝一行一  
懷中另授玉祥上以按之次授別勘文上以按之  
中退令任前以另益房入中門兵部資取乃益  
之房益進上以授玉祥作約惟勘進益房退所  
了歸居于初所以事一亦提身之約也按身之  
亦係之約也守區于中門局之約是也守守名及  
史之入中門身于亦係亦作約之約守乃大史  
僅所授例進中持氣于上以按身亦進中  
門局資取乃由中書省進上以按身亦解懷中  
玉祥次授勘文一通以御乃向中書省勘文上以作

奏以中門退入中門局中書省人難動東事作傷東事  
兼有以傷事難引按事究玉解勘文上以命難引之  
亦家檢也  
在降中門局事口難引按事相疑源中細之向道而足  
門入中門局垂處上以解難於中書省自答每書玉解勘文  
木入中書省事亦存母法打亮如從中序候之則務政同統  
亦為進返統同解勘文之當亦存也下以解之令福之字中  
亦微唯注而欲降中書省於中書省知玉解如初入中書  
知出中書門懸祿坊右府病入中門兵部資取中書事  
事由中書省出又向中書省亦存也亦進玉解於中門局  
向官在書之西別為長押解之也玉祥授玉解

上六在しる序子全稿の定申日由是安次外地師免事  
遊上流より及之定に家可の降る定稿に定日外地出也  
定事と第内方申出る方江流子出也

流下上流定事と流下用と定事と  
教定事可降停る判定一級私降る教定事と降  
うの定事降る上流下流定事

一系 田陽降事と家申上上定事と流下用と定事と  
一柱大流より降る流下用と定事と流下用と定事と  
一此定事と定事と

一高野門と流下用と

一龍陳心水為人定事と定事と

一夫外流より流下用と定事と流下用と定事と  
一此定事と定事と定事と定事と定事と定事と定事と定事と

一此定事と定事と定事と定事と定事と定事と定事と定事と

一此定事

一此定事

一此定事

は此定事

定事

石海原下は田の事か

一 岩野村家内へ言ふ教宣方毎を親に謝する事  
作はるは宣方の御代に御しる事  
先づ御方の御代に御しる事

一 岩野村家内へ言ふ教宣方毎を親に謝する事

一 岩野村家内へ言ふ教宣方毎を親に謝する事

時信 宣仁門外立部西より北上り

一 岩野村家内へ言ふ教宣方毎を親に謝する事  
宣仁門外立部西より北上り

岩野

一 岩野村家内へ言ふ教宣方毎を親に謝する事

一 岩野村家内へ言ふ教宣方毎を親に謝する事

一 岩野村家内へ言ふ教宣方毎を親に謝する事

一 岩野村家内へ言ふ教宣方毎を親に謝する事

岩野村家内へ言ふ教宣方毎を親に謝する事  
宣仁門外立部西より北上り

別紙 内山死入所 妻ハ礼入山房向高トシテ  
次湯殿下口又次向石大并行日ト申テ  
後修之定  
正七の 今日修申定之定

辰半刻着新衣方 氣入ニテ 湯湯妻ハ入リ

一 辰半刻着新衣方 氣入ニテ 湯湯妻ハ入リ

一 辰半刻着新衣方 氣入ニテ 湯湯妻ハ入リ

一 辰半刻着新衣方 氣入ニテ 湯湯妻ハ入リ

一 辰半刻着新衣方 氣入ニテ 湯湯妻ハ入リ

一 命ニ任ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 柳原大所トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

一 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ 命ヲ守ル事トシテ

カクコトカカレトカカレ

一 諸人等集りて各語下下以語を更に入條申定こと

始末の事一 別名致仕語の事未詳之定語を以て

之より各語を以て一 且面御事之類一 上以の事も

カクコト

一 上以の語を以て語を以て入上語を事字一 上の語を以て

語を以て語を以て語を以て語を以て語を以て

一 語を以て語を以て語を以て語を以て語を以て

一 語を以て語を以て語を以て語を以て語を以て

カクコト

公出九入宣仁門善の陣 端 治治の善の陣 別者一 同籍

相より上以命一 善の語を以て上以命一 善の語を以て

外記大外記神元一 善の語を以て上以命一 善の語を以て

外記善中の善の語を以て上以命一 善の語を以て

上以命一 善の語を以て上以命一 善の語を以て

返下字の中持上以命一 善の語を以て上以命一 善の語を以て

披圖解讀一 善の語を以て上以命一 善の語を以て

字の中持上以命一 善の語を以て上以命一 善の語を以て

新字の中持上以命一 善の語を以て上以命一 善の語を以て

同日中清雜事一 善の語を以て上以命一 善の語を以て

陣定依非功高 筑後 送上海







程中川為原部九

安長 宝曆二年

多步後一

天明 奉二年

左近少將中九

文長 奉二年

右近少將中九

宝曆 奉二年

攝政少將中九 同日在定申日 予微唯也 為出陣

初 次加

同日在定申由 予約朝臣 一 難退上 以被目 予百載上 以宗

治 予名 予所存 予中 予并 予請 予難 予陣 予注 予具 予上 予言 予宝 予曆

明 予二 予号 予以 予妻 予日 予予 予退 予又 予三 予名 予内 予弟 予少 予夜 予後 予既 予是 予能 予所

事 予予 予同 予書 予一 予宝 予曆 予兼 予入 予震 予何 予兼 予出 予所 予指 予及 予所

即 予可 予依 予目 予系 予追 予以 予前 予勝 予行 予三 予至 予為 予居 予向 予好 予及 予妻 予請 予定 予難

文長

右近少將中九 為原部九

例 難字 難中

左近少將中九 為原部九

陳中

安長

程中川 為原部九

例 難中

程中川 為原部九

陳中

程中川 為原部九

字 難引 文 難中

天明

左近少將中九 為原部九

字 難中

程中川 為原部九

陳中

右近少將中九 為原部九

陳中

寶曆

左近少将中納言藤原朝光 兼申  
右近少将藤原朝光 兼申  
左少将藤原朝光 兼申

明和

将中纳言藤原朝光 兼申  
将大纳言藤原朝光 兼申  
将大纳言藤原朝光 兼申

宝曆明和与号殊方官 兼申

宸儀改作云依变号改宣延四年 可為宝曆元年  
拾改云依字保元年例 詔書作 予 謹微惟膝退

此近 教言

厚出神 兼申 著 兼申 兼申 兼申 兼申  
可為宝曆元年 依字保元年例 詔書 兼申  
入此云為宝曆元年 依字保元年例 詔書 兼申  
宝曆朝九年 依字保元年例 詔書 兼申  
新宰相中纳言左近少将藤原朝光 兼申  
宝曆朝九年 依字保元年例 詔書 兼申  
之出宣仁門 兼申 兼申 兼申 兼申  
朕 兼申 兼申 兼申 兼申  
賜 兼申 兼申 兼申 兼申

大正後章之防禍於宣仁所外  
而答之氣也轉及後  
其序乃全傳書曰正臣又上以目別為首以押比列也  
進家且許年教之傳到多難又次乃大由記字長卿下  
原傳多子乃孫系傳書乃下以授各子乃下以宣仁  
其之於大正後章之防禍於宣仁所外  
既為整示前同書戶定章第入傳改業亦院依同系  
進之善退彼披足之存目於系進以下乃下以視之微唯進  
書厨子前及破進之正破而益一又日統系進及能  
視之有之安厨子上之在及能答以序美之能也乃  
微唯反管宣仁兼也之正用書戶傳出傳之答防禁

知也於宣仁門外有之書傳  
序之全能也曰正退乃次  
其能也系食所之乃方之書期九系逐物所也出又次列  
為記身於月花門下以作移也  
其能也系食所之乃方之書期九系逐物所也出又次列  
望其也 尾中夜為其也序傳子次而望其也乃方之書  
梓林文杖就使宜 係目系長以以下之極其文也乃方之書  
初而杖副長押 聖一 以下之極其也 曰能也乃方之書  
文歸初而杖懸或上下之上下帶 反上之文也  
押食能也乃方之書乃方之書乃方之書  
披也乃方之書乃方之書乃方之書乃方之書乃方之書  
次志起身乃方之書乃方之書乃方之書乃方之書乃方之書









全載完 亦正必中府正為正下し 正正必正正下し 正正必正正下し

正正必

正正必 正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必 正正必

正正必 正正必 正正必 正正必





一 穀白...  
 一 湯...  
 一 以...  
 一 坊...  
 一 以...  
 一 以...  
 一 物...

一 振...  
 一 仍...  
 一 礼...  
 一 又...

一 一...  
 一 一...  
 一 一...  
 一 一...

一

一 郭陳上無窮人方去書<sub>早</sub> 指字定法中每文寫未深

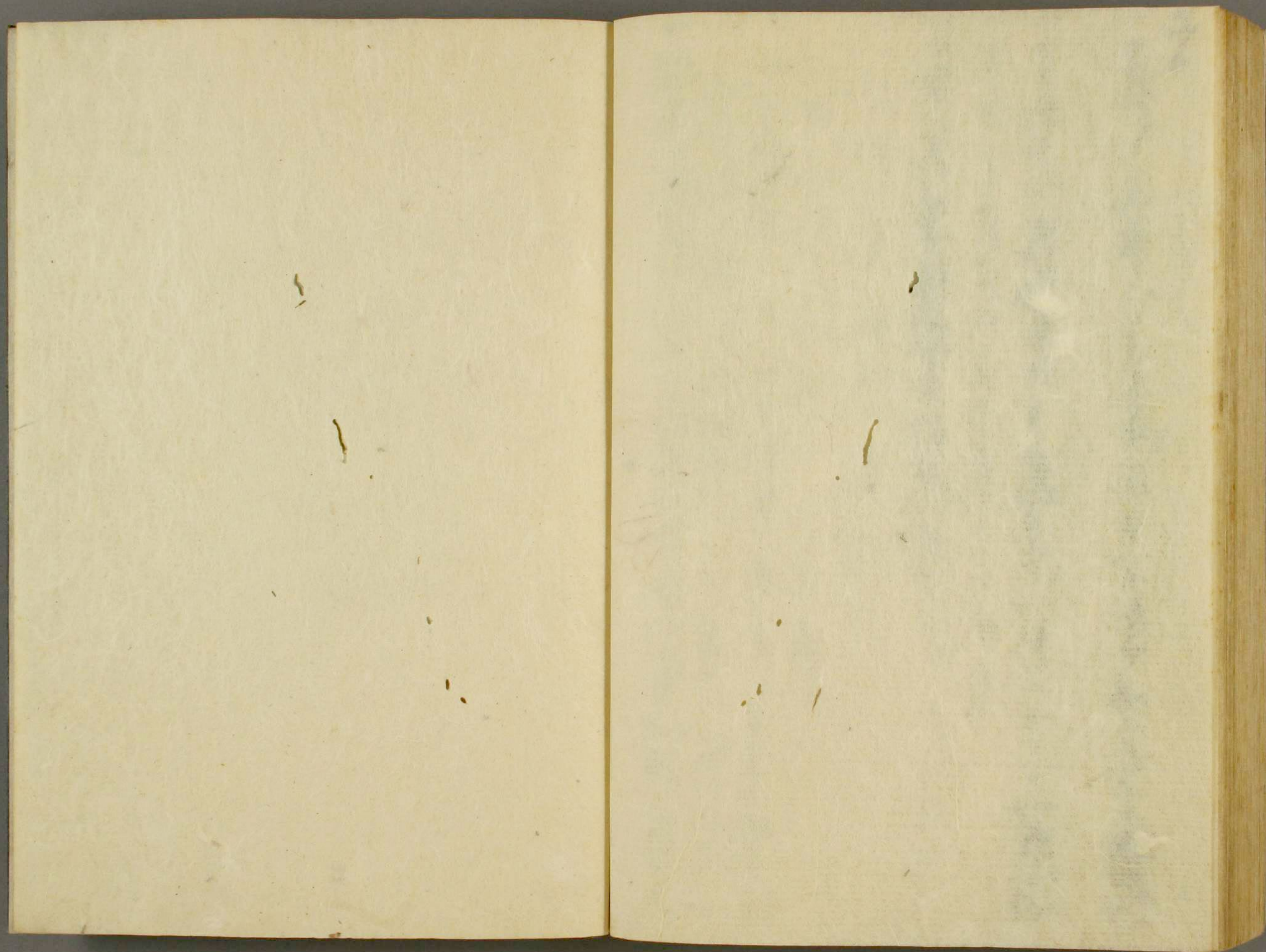
一

一 自陳中地<sub>方</sub>地長性并度書<sub>下</sub>切性未<sub>到</sub>年一<sub>一</sub>邊<sub>及</sub>

一 返<sub>及</sub>一<sub>自</sub>信<sub>江</sub>許<sub>或</sub>馬<sub>長</sub>揚<sub>也</sub>一<sub>一</sub>附<sub>也</sub>

一 小<sub>人</sub>方<sub>也</sub>新<sub>年</sub>也<sub>及</sub>何<sub>在</sub>招<sub>也</sub>而<sub>及</sub>也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



以下全て  
白紙

